

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ありんこるーむ芦北			放課後等デイサービス
○保護者評価実施期間	2024年11月18日		～	2024年12月8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数)	23
○従業者評価実施期間	2024年11月18日		～	2024年12月8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月27日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	全員で参加するグループ活動	子どもが楽しみ、意欲的に参加したくなる内容を考える 自然とSSTが学べるルール作り(協力・応援・話し合い・譲り合いなど) 点数の計算、日常生活に必要な動作を取り入れ、遊びの中で学ぶ機会を設ける	グループの学年や発達段階に合わせた、内容やルールを考え、準備する 内容のレベルアップ、レポーターを増やすなど、マンネリ化しないよう工夫する
2	子ども同士の交流を目的とした選択活動	一人で過ごす時間も大切にしながら、友達と誘い合って遊ぶことを促す 2人以上で成立する遊びを選択肢に多く取り入れる 子ども同士のやり取りをできるだけ見守り、必要に応じてアドバイスする	子どもが積極的に遊べる内容の見直し 輪に入ることが苦手な子へのきっかけ作り
3	来所時のミーティング、降所前の振り返り	個々の目標の確認と振り返りを行い、目標達成に向けて子どもとスタッフで一緒に取り組む 活動内容や時間の確認を行い、自発的な行動を促す 表やイラストを使用し、気持ちや出来事を詳しく伝えられるようサポートする	子どもに意識付けができるよう、具体的に伝える 自分で行動、計画を立てる力を育てるための、視覚支援や声掛けの方法を見直す

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	限られた設備と活動スペース	利用児の学年が上がると、体も大きくなるため、活動スペースが狭く感じたり、距離感も近くなってしまふ キッチンなどの設備がないため、活動が限られてしまふ 庭で遊具を使いづらく、選択活動のレポーターを増やすことが難しい	限られたスペースの有効活用を考える パーティションを使って空間を分けるなどの工夫 庭で遊具を使うためのルール決め 長期休暇を利用し、地域の施設の活用を考える
2	高学年化による、短い滞在時間での活動の設定	高学年に上がるにつれ、6時間授業が増え、滞在時間が1時間程度になってしまう 限られた時間に活動や目標に向けた取り組みを設定するため、余裕がなくなってしまう	短時間の中でも、何を目的に取り組むのかを再確認し、支援につなげる 長期休暇を利用し、いろいろな体験ができるようにする
3	保護者、家族との交流や支援	送迎時ではゆっくり話す時間がない 保護者だけでなく、祖父母、きょうだいと交流する機会がなく、家族支援の充実につなげていない 仕事をしている家庭が多く、時間を作って来所されることが難しい	保護者会を定期的に開催し、参加しやすい内容や時期を考える 家族が参加できるイベントなどを計画する 個別面談を設けるなど、顔を合わせる機会を作る いつでも療育の見学ができることを再度お知らせする